

## 淡路島南西部の和泉層群から産出するカンパニアン後期の放散虫化石

## Late Campanian radiolarian fossils from the Izumi Group in the southwestern part of Awaji Island

# 吉野 恒平 [1]; 松岡 篤 [2]

# Kohei Yoshino[1]; Atsushi Matsuoka[2]

[1] 新潟大・院・自然科学

; [2] 新潟大・理・地質科学

[1] Natural Sci., Niigata Univ; [2] Dept. Geology, Niigata Univ

白亜紀新世の放散虫化石に関する研究は数多く行われてきたが、放散虫化石が示す産出年代範囲については、不明な点が多い。和泉層群は四国西部から和泉山脈まで中央構造線に沿って分布する上部白亜系で、カンパニアンからマーストリヒチアンわたるアンモナイト化石帯が設定されている (Morozumi, 1985)。淡路島西南部に分布する和泉層群に対して野外調査を実施し、放散虫化石の抽出を試みた。その結果、カンパニアン階上部を示すアンモナイト化石帯、*Pravitoceras sigmoidale* 帯から放散虫化石を得たので報告する。

放散虫化石は、南淡路市阿那賀に分布する西淡路層湊頁岩層の珪質ノジュールから産出した。このノジュールは直径10cmで、フッ酸処理により保存良好の放散虫化石と有孔虫化石が産出した。放散虫化石が産出した層準の7.5m下位と26m上位からは、*Pravitoceras sigmoidale* Yabe が産出した。このアンモナイトはカンパニアン後期を示す (Morozumi, 1985)。したがって、アンモナイトの産出層準に挟まれる放散虫化石の産出層準もカンパニアン後期であるといえる。これまでに、*Amphipyndax stocki* (Campbell & Clark), *Amphipyndax tylotus* Foreman, *Dictyomitra multicostata* Zittel など8属13種の放散虫化石を見いだしている。これらの種の産出レンジがカンパニアン後期を含むことが確認されたといえる。